

イスラエル

2021年10月27日

海外調査部・テルアビブ事務所

2020年のイスラエル経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、実質GDP成長率は2.6%減となった。経済の停滞により、貿易は輸出入ともに減少し、貿易赤字が拡大した。日本の対イスラエル貿易は、輸入は横ばいとなったが、自動車を中心とした日本からの輸出は減少した。一方で対内直接投資は、新型コロナ感染拡大後もスタートアップ向けを中心に活発に行われ、前年比3割増となった。2020年の日本の対イスラエル投資額も、約17億円で前年比2倍以上となり、新型コロナ禍でも日本企業による投資や協業の事例がみられている。

■成長率は2.6%減、輸出入はともに減少

2020年のイスラエル経済は、新型コロナ拡大の影響を受けて、実質GDP成長率は前年の3.4%からマイナス2.6%となった。2020年に2度にわたるロックダウンなどの行動・営業制限が行われたことにより、休業・失業などで労働市場が冷え込み、個人消費も落ち込んだ。政府は対策として、世界でも有数の早さでワクチン接種を推進したが、2021年8月には変異株（デルタ株）の影響で再び感染者数が急増しており、3回目接種の実施を急いでいる。

貿易をイスラエル通関統計で見ると、2020年の輸出は前年比14.3%減の501億5,400万ドル、輸入は9.8%減の692億7,000万ドルとなった。経済停滞の影響で輸出入ともに減少し、貿易赤字が前年の182億7,600万ドルから約8億ドル増加して、191億1,600万ドルとなった。

輸出を品目別にみると、機械機器・電子機器・音響画像記録装置は前年比1.6%増で全体の27.7%を占め、金額ベースで最大となった。次いで、前年は最大だった化学製品が23.3%を占めたが、その1割強を占める医薬品が44.2%減となったことで、16.0%減となった。3位は11.9%を占める真珠、貴石、金属およびその製品で、50.1%減と大きく減少した。同品目の輸出は近年減少傾向が続いており、2020年は新型コロナによる経済停滞の影響でさらに大きく落ち込み、輸出額全体にも影響を及ぼした。

地域別に輸出額をみると、北米（構成比28.0%、前年比17.2%減）、アジア（22.7%、15.3%減）、EU27（21.8%、11.2%減）の順となっており、これら主要地域でいずれも大きく減少した。英国を含むEU28としては前年まで構成比で最大だったが、イスラエルとの貿易額が大きかった英国が離脱してEU27となった結果、アジアに次ぐシェア3位となった。

国別にみても、米国（17.7%減）、中国（26.6%減）、英国（25.6%減）など、構成比が大きい主要国向けが軒並み減少しており、輸出額全体を1割以上下げる要因となった。また、スイスは構成比が0.9%と大きくないが、真珠、貴石、金属およびその製品の減額が響き、59.0%減と大きく減少した。このような中で輸出を伸ばしたのはオランダ（13.2%増）、韓国（11.5%）、日本（8.2%）、台湾（6.9%）

など、限られた国々にとどまった。

輸入を品目別にみると、輸出と同様に機械機器・電子機器・音響画像記録装置が全体の25.9%を占めて最大（前年比2.0%増）、次いで11.7%を占める化学製品（9.2%増）、9.8%を占める輸送機器（35.8%減）、8.7%を占める鉱物性生産品（37.4%減）となった。前年に輸入品目の2位だった輸送機器は、航空機・同部品（6億6,580万ドル、67.3%減）や船舶（4,890万ドル、96.1%減）が大きく落ち込んだことから3位となった。真珠、貴石、金属およびその製品は、2016年以降継続的に減少してお

表1 イスラエルの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)				
	2019年	2020年			2019年	2020年			
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
機械機器・電子機器・音響画像記録装置	13,688	13,901	27.7	1.6	機械機器・電子機器・音響画像記録装置	17,570	17,921	25.9	2.0
化学製品	13,896	11,669	23.3	△ 16.0	化学製品	7,425	8,110	11.7	9.2
医薬品	2,983	1,665	3.3	△ 44.2	輸送機器	10,567	6,788	9.8	△ 35.8
真珠、貴石、金属およびその製品	11,963	5,974	11.9	△ 50.1	鉱物性生産品	9,676	6,058	8.7	△ 37.4
光学・医学・精密機器	5,568	5,676	11.3	1.9	単金属およびその製品	4,542	4,473	6.5	△ 1.5
ゴム・プラスチック製品	2,955	2,878	5.7	△ 2.6	真珠、貴石、金属およびその製品	5,141	3,249	4.7	△ 36.8
輸送機器	2,791	2,395	4.8	△ 14.2	ゴム・プラスチック製品	3,260	3,196	4.6	△ 2.0
単金属およびその製品	1,943	1,964	3.9	1.1	光学・医学・精密機器	2,916	3,067	4.4	5.2
鉱物性生産品	1,351	1,429	2.8	5.8	食料品、飲料、タバコ	2,853	3,012	4.3	5.6
植物性生産品	1,344	1,317	2.6	△ 2.0	繊維製品	2,860	2,940	4.2	2.8
繊維製品	985	961	1.9	△ 2.4	植物性生産品	2,118	2,237	3.2	5.6
合計 (その他含む)	58,508	50,154	100.0	△ 14.3	合計 (その他含む)	76,785	69,270	100.0	△ 9.8

[出所] イスラエル中央統計局(CBS)

り、2020年は36.8%減と鉱物性生産品に次ぐ減少率となった。

輸入を地域別にみると、前年と同様に構成比はEU27（構成比34.8%、前年比2.5%減）、アジア（25.3%、1.2%増）、北米（12.1%、30.4%減）の順となり、大幅に縮小した北米と対照的に、アジアからの輸入はわずかながら増加した。

国別にみると、輸入額が約36億ドル減少した米国が31.1%減で最大の下げ幅だった。次いでインド（18.7%減）、ベルギー（14.8%減）も大きく減少した。日本は6.2%減の12億3,900万ドルだった。一方で、中国が10億ドル近く輸入を増やし、国別の構成比も14.0%となり、米国を抜いて最大の輸入相手国となった。

表2 イスラエルの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2019年	2020年			2019年	2020年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
アジア	13,471	11,403	22.7	△ 15.3	17,332	17,545	25.3	1.2
中国	7,463	5,480	10.9	△ 26.6	8,712	9,680	14.0	11.1
インド	1,989	1,599	3.2	△ 19.6	1,861	1,514	2.2	△ 18.7
日本	877	948	1.9	8.2	1,322	1,239	1.8	△ 6.2
韓国	706	788	1.6	11.5	1,628	1,693	2.4	4.0
台湾	686	733	1.5	6.9	943	938	1.4	△ 0.5
欧州	21,282	17,575	35.0	△ 17.4	37,614	36,675	52.9	△ 2.5
EU27	12,336	10,954	21.8	△ 11.2	24,757	24,127	34.8	△ 2.5
オランダ	2,176	2,463	4.9	13.2	2,898	2,902	4.2	0.2
ドイツ	1,672	1,681	3.4	0.6	5,631	5,230	7.6	△ 7.1
ベルギー	1,637	1,458	2.9	△ 10.9	3,597	3,066	4.4	△ 14.8
フランス	1,543	1,154	2.3	△ 25.2	2,076	2,136	3.1	2.9
スペイン	988	875	1.7	△ 11.4	1,602	1,526	2.2	△ 4.7
イタリア	950	787	1.6	△ 17.1	2,806	2,684	3.9	△ 4.4
英国	4,992	3,713	7.4	△ 25.6	3,035	2,969	4.3	△ 2.2
トルコ	1,758	1,431	2.9	△ 18.6	3,208	3,498	5.0	9.0
スイス	1,085	445	0.9	△ 59.0	5,626	5,227	7.5	△ 7.1
北米	16,941	14,022	28.0	△ 17.2	12,064	8,400	12.1	△ 30.4
米国	15,964	13,132	26.2	△ 17.7	11,688	8,050	11.6	△ 31.1
カナダ	625	567	1.1	△ 9.3	279	276	0.4	△ 1.2
中南米	1,820	1,617	3.2	△ 11.2	992	888	1.3	△ 10.5
ブラジル	1,180	1,007	2.0	△ 14.7	235	220	0.3	△ 6.7
アフリカ	731	586	1.2	△ 19.9	351	323	0.5	△ 7.8
オセアニア	590	546	1.1	△ 7.5	260	201	0.3	△ 22.6
合計 (その他含む)	58,508	50,154	100.0	△ 14.3	76,785	69,270	100.0	△ 9.8

[注] 中国は中国本土と香港の合計値。

[出所] イスラエル中央統計局(CBS)

■対内直接投資は前年比3割増の248億ドル

中央統計局によると、2020年の対内直接投資は247億5,900万ドル（国際収支ベース、ネット、フロー）で、前年から30.0%増加した。新型コロナ禍においても、スタートアップ向けを中心に対内投資が活発に行われていたことがうかがえる。他方、対外直接投資は58億6,000万ドルで、前年から31.8%減少した。

2020年のイスラエル企業への主な投資案件としては、6月に米国のクラウドデータサービス企業

ネットアップ (NetApp) がクラウドでインフラマネージメント経費削減サービスを提供するスポット (Spot) を買収 (現地報道によれば4億5,000万ドル相当)、同月に米国のマイクロソフトがIoTサイバーセキュリティ企業サイバーエックス (CyberX) を買収した (同1億6,500万ドル相当)。7月には、米国の投資管理会社アドベント・インターナショナル (Advent International) がサイバーセキュリティ企業フォアスカウト・テクノロジーズ (Forescout Technologies) を16億ドルで買収し、2020年最大の案件となった。10月には米国のシスコ (Cisco) がサイバーセキュリティ企業ポートシフト (Portshift) を買収した (同1億ドル相当)。2021年に入っても、2月には米国のサイバーセキュリティ企業パロ・アルト・ネットワークス (Palo Alto Networks) が同業のブリッジクルー (Bridgecrew) を1億5,600万ドルで買収するなどの大型M&A案件が続いている。

■日本の対イスラエル輸出は減、輸入は横ばい

日本の財務省貿易統計をドル換算したものによると、2020年の日本とイスラエルの貿易は、日本からイスラエルへの輸出が15億1,223万ドル (前年比9.3%減)、輸入は12億3,065万ドル (1.1%増) となった。輸出は2016~2018年まで20億ドル台で推移していたが、2019年から減少に転じ、2020年には15億ドル台に減少した。そのため日本の貿易黒字も減少傾向となり、2020年には2億8,158万ドルと前年の4億4,927万ドルから約37%減少した。

イスラエル向けの輸出が減少した主な要因として、新型コロナ禍でイスラエル国内の自動車市場が停滞したことなどにより、構成比で42.4%を占める自動車が18.8%減となったことが大きい。他方、構成比が20.6%と乗用車に次いで大きい半導体等製造装置は、前年は6割減となっていたが、2020年は横ばいとなった。世界的な半導体需要の高まりを受けて、イスラエルの半導体製造工場の設備投資が戻りつつあることがうかがえる。

イスラエルからの輸入を牽引したのは電気機器で、特にICを主要品目とする半導体等電子部品が、日本の半導体需要の増加に呼応して2.1倍と大きく伸び、他の品目の減少をカバーした。一方、一般機械は23.8%減、原料別製品は20.6%減と大きく減少した。

表3 日本の対イスラエル主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:1,000ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2019年		2020年			2019年		2020年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
輸送用機器	814,152	667,000	44.1	△ 18.1	電気機器	331,679	451,990	36.7	36.3
自動車	789,696	641,067	42.4	△ 18.8	半導体等電子部品	71,388	148,853	12.1	108.5
乗用車	743,069	624,491	41.3	△ 16.0	IC	68,741	146,594	11.9	113.3
一般機械	414,544	421,756	27.9	1.7	通信機	35,407	68,512	5.6	93.5
半導体等製造装置	306,192	311,163	20.6	1.6	化学製品	198,319	193,922	15.8	△ 2.2
金属加工機械	17,558	19,088	1.3	8.7	科学光学機器	143,633	162,012	13.2	12.8
電気機器	98,317	106,413	7.0	8.2	一般機械	211,700	161,314	13.1	△ 23.8
化学製品	109,032	97,743	6.5	△ 10.4	原料別製品	161,885	128,481	10.4	△ 20.6
プラスチック	27,886	26,541	1.8	△ 4.8	金属製品	71,196	66,432	5.4	△ 6.7
原料別製品	45,924	46,193	3.1	0.6	非金属鉱物製品	80,834	52,941	4.3	△ 34.5
写真用・映画用材料	38,065	38,514	2.5	1.2	食料品	88,301	79,561	6.5	△ 9.9
合計 (その他含む)	1,666,536	1,512,231	100.0	△ 9.3	合計 (その他含む)	1,217,268	1,230,649	100.0	1.1

(出所) 財務省貿易統計 (通関ベース) をドル換算

■日本の対イスラエル投資額は前年から倍増

日本銀行の国別・業種別対外・対内直接投資統計 (国際収支ベース、ネット、フロー) によると、2020年の日本の対イスラエル投資額は17億円で、前年の8億円に対し、新型コロナ禍にも関わらず2

倍以上増加した。他方、2020年のイスラエルから日本への対内投資額も85億円となり、前年の6億円の引き揚げ超過から増加に転じた。

2020年7月以降の日本企業による対イスラエル投資案件や提携事例としては、8月にNTTデータが非接触型バイタルデータ取得技術を有するビナー (Binah.ai) と提携し、スマートフォンカメラによる健康管理サービスの実証を開始した。11月には三井住友海上火災保険が、オンライン専門損害保険を中核事業とする持株会社Direct Insurance - Financial Investmentsへ出資し、傘下の保険会社I.D.I Insurance Company内に共同ラボを設置した。また、12月には日本のバイオ製薬企業アンジェスが、ゲノム編集技術を開発するエメンドバイオ (EmendoBio) を2億5,000万ドルで買収した。

2021年に入ってから、2月にはオリンパスが、医療機器メーカーのメディテイト (Medi-Tate) 買収を発表して5月に完了、同社泌尿器科事業における低侵襲治療領域の製品ポートフォリオ強化により、事業を拡大している。6月にはSBIホールディングス傘下のベンチャーキャピタル、SBIJIイノベーションアドバイザーが運用額100億円のファンドを立ち上げ、日本の製薬会社や金融機関から出資を募り、イスラエルのヘルスケア関連スタートアップなどへの投資を展開している。7月には、NTTがイスラエルにおいて技術探索や協業の可能性を追求するイノベーションラボを現地法人として設立した。

外務省「海外進出日系企業拠点数調査」によると、日系企業の2020年10月1日時点でのイスラエルおよびガザ地区などの企業拠点数は92となり、前年同日時点の93からは微減となった。

主要経済指標

	2018年	2019年	2020年
①人口：929万人 (2020年)			
②面積：2万2,072km ²			
③1人当たりGDP：4万3,689米ドル (2020年)			
④実質GDP成長率 (%)	3.5	3.4	△ 2.6
⑤消費者物価上昇率 (%)	0.5	0.7	△ 0.9
⑥失業率 (%)	4.0	3.8	4.3
⑦貿易収支 (100万米ドル)	△ 14,659	△ 18,277	△ 19,116
⑧経常収支 (100万米ドル)	9,944	12,757	20,642
⑨外貨準備高 (100万米ドル)	115,279	126,014	173,297
⑩対外債務残高 (100万米ドル)	94,307	103,202	130,410
⑪為替レート (1米ドルにつき、シェケル、期中平均)	3.59	3.56	3.44

〔注〕2020年値は全て暫定値、②：ヨルダン川西岸・ガザ地区を除き、ゴラン高原、東エルサレムを含む、⑦は通関ベース〔出所〕①②④～⑧⑩⑪：イスラエル中央統計局 (CBS)、③：IMF、⑨：イスラエル中央銀行

(お問い合わせ先)

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp